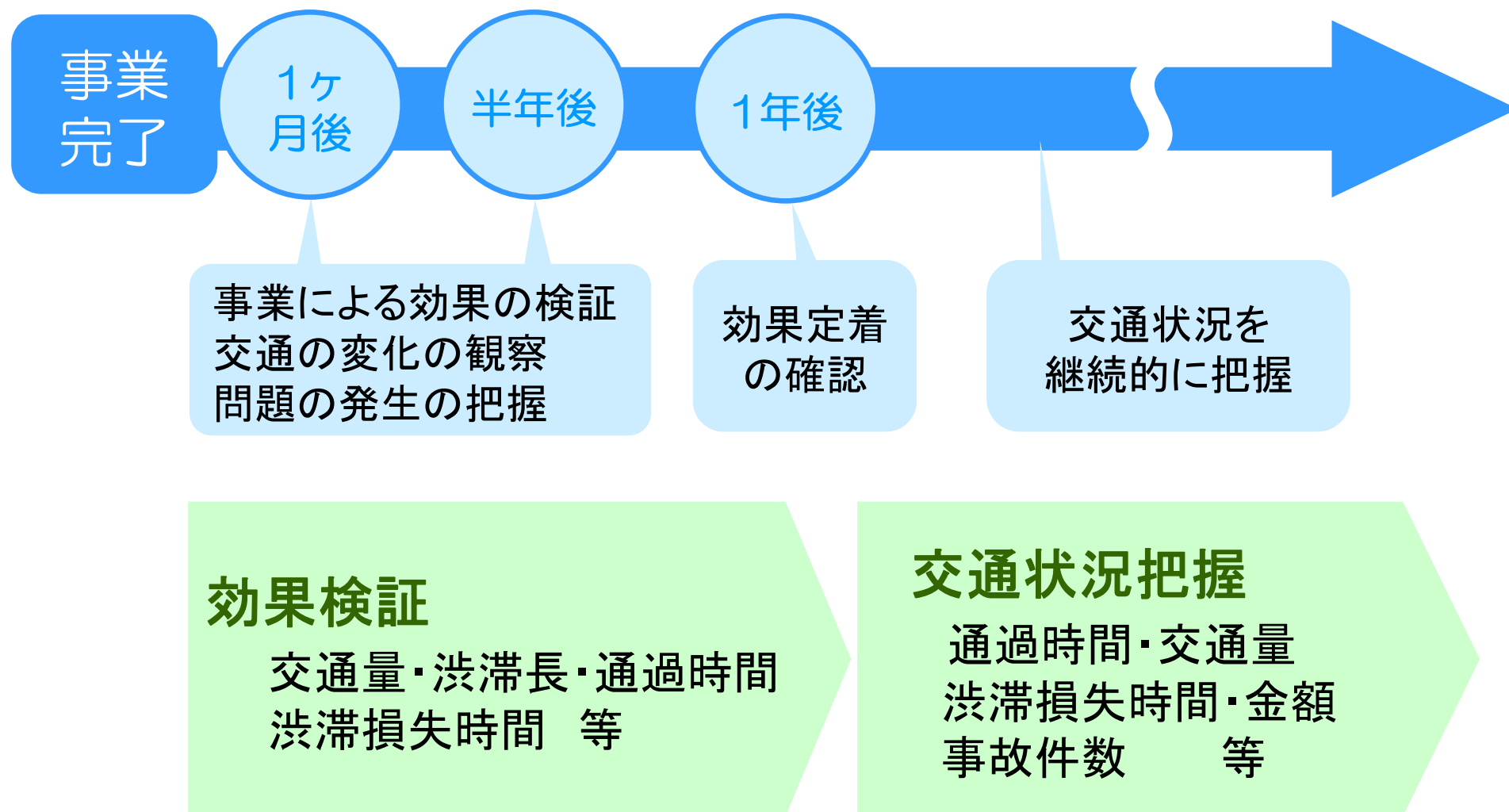


効果検証(Check)実施時期と主な目的



神奈川県「見える化計画」 今後の進め方について(2)

新石川交差点立体化事業の例

平成18年3月5日 開通 **Do**

開通直後～1年後 事後評価・公表
(プローブ調査・交通量調査等の実施) **Check**



効果の確認

- ・通過時間の短縮
- ・渋滞損失時間の縮小
- ・開通前後の道路の様子

直後

効果の確認

- ・経済効果(渋滞損失時間)
- ・周辺抜け道交通量の減少
- ・沿道環境の改善(CO₂, NO_x, SPM)

1ヵ月後

効果の確認

- ・事故の減少
- ・通過時間の短縮
- ・バスの定時性の向上
- ・周辺住民、企業活動への効果
(近隣駐車場への出入口渋滞の解消等)

半年後

効果の確認

- ・通過時間の短縮
 - ・交通事故件数の減少
 - ・周辺抜け道交通量の減少
- 新たな問題の発生の確認
- ・交通アクセスの増加→右折レーン長の不足

1年後



改善措置の必要性の検討 **Action**

Plan

平成19年9月 右折レーンの延長 **Do**

神奈川県「見える化計画」 今後の進め方について(3)

新石川交差点立体化事業の例

直前情報 1週間後

1ヶ月後

半年後

1年後



新石川立体化

～国道246号の渋滞解消～

記者発表資料

新石川交差点の渋滞対策として
平成18年3月5日(日)

～期待される整備効果～

- 渋滞の解消
- 交差点の通過時間(最大12分)が短縮
- 快適な歩行空間の確保
- 歩道幅員片側1.8mが3.5mに拡張
- アクセシビリティの向上
- 草木方面から港北ニュータウン方面へ右折が可能になります
- 環境が改善
- 交通の円滑化により、CO₂排出量が削減
- 開通式典及び開通イベントを

平成18年3月5日
国土交通省 関東地方整備局

発表記者
竹芝記者クラブ、神奈川県建設記者会、神奈川県政記者クラブ

問い合わせ先
国土交通省 関東地方整備局 川崎国道事務所
〒213-8577 川崎市 磯子区 磯子 1-1-1
副所長 桑川 裕一
調査課長 山崎 隆
Tel. 044-888-6411

新石川立体開通による整備効果

～国道246号新石川交差点～

記者発表資料

新石川立体開通による整備効果
★国道246号の流れがスムーズに
江田駅東～鷺沼2丁目(横浜・川崎市境)間の

平成18年6月30日
国土交通省 関東地方整備局

発表記者
竹芝記者クラブ、神奈川県建設記者会、神奈川県政記者クラブ

問い合わせ先
国土交通省 関東地方整備局 川崎国道事務所
〒213-8577 川崎市 磯子区 磯子 1-1-1
副所長 桑川 裕一
調査課長 山崎 隆
Tel. 044-888-6411

渋滞名所「新石川交差点」

記者発表資料

平成18年3月5日に開通した「新石川立体」について開通半年後の状況

記者発表資料

平成18年3月5日に開通した「新石川立体」について開通半年後の状況

○開通半年後に「見える化」された更なる効果

【安全】新石川交差点周辺での交通事故が減少

- ・新石川交差点の事故が0件から1件に激減(開通前後半年間)
- ・さらに国道246号は事故件数が5割減少(交通量は1割増)

【便利・快適】渋滞緩和で、住民生活や企業活動が改善

- ・右折効果で、新石川交差点から居住区(牛久保地区)まで(距離は1/3に)
- ・新石川交差点を通るバス交通等の定時性確保、所要時間の短縮
- ・新石川交差点の渋滞解消で、近隣の店舗駐車場への利用が促進

○今後の取り組み

- ・依然として渋滞が解消されない、隣接区間の渋滞対策を検討してまいります。

平成18年10月30日
国土交通省 関東地方整備局 川崎国道事務所

発表記者クラブ
竹芝記者クラブ、神奈川県建設記者会、神奈川県政記者クラブ、横浜市政記者会

問い合わせ先
国土交通省 関東地方整備局 川崎国道事務所 tel. 044-888-6411
副所長 桑川 裕一 (内線205)
調査課長 山崎 隆 (内線451)

渋滞が解消された「新石川交差点」

～地域の人々から見た「新石川立体」のさまざまな効果～

記者発表資料

平成18年3月5日に開通した「新石川立体」について開通半年後の状況

記者発表資料

平成18年3月5日に開通した「新石川立体」について開通半年後の状況

○開通半年後に「見える化」された更なる効果

【安全】新石川交差点周辺での交通事故が減少

- ・新石川交差点の事故が0件から1件に激減(開通前後半年間)
- ・さらに国道246号は事故件数が5割減少(交通量は1割増)

【便利・快適】渋滞緩和で、住民生活や企業活動が改善

- ・右折効果で、新石川交差点から居住区(牛久保地区)まで(距離は1/3に)
- ・新石川交差点を通るバス交通等の定時性確保、所要時間の短縮
- ・新石川交差点の渋滞解消で、近隣の店舗駐車場への利用が促進

○今後の取り組み

- ・依然として渋滞が解消されない、隣接区間の渋滞対策を検討してまいります。

平成18年10月30日
国土交通省 関東地方整備局 川崎国道事務所

発表記者クラブ
竹芝記者クラブ、神奈川県建設記者会、神奈川県政記者クラブ、横浜市政記者会

問い合わせ先
国土交通省 関東地方整備局 川崎国道事務所 tel. 044-888-6411
副所長 桑川 裕一 (内線205)
調査課長 山崎 隆 (内線451)

国土交通省 関東地方整備局

Ministry of Land, Infrastructure and Transport Kanto Regional Development Bureau

道路「見える化」計画

～新石川立体開通から1年 更なる「見える化」に向けて～

「江田駅東交差点」の渋滞解消に向けた対策に着手

記者発表資料

平成18年3月5日に開通した「渋滞見える化プラン」対策第1号の国道246号「新石川立体」について開通1年後の状況をレポートします。

○開通から1年、立体化による効果が定着化

【便利・快適・安全】立体部周辺地域の利便性・安全性の向上が定着化

- ・休日混雑していた荏田綱島線の新石川交差点の通過時間は7～10分削減
- ・新石川交差点周辺の抜け道では、交通量が1割減少
- ・生活道路へ流入していた車が減少したことにより、交通事故件数が3～6割削減

○立体化後、あらたに「見える化」された問題

【新石川交差点】立体化後に発生した渋滞問題

- ・右折レーン長が不足し、交差点部ではあらたな渋滞が発生

【江田駅東交差点】地元関係者と現地診断を実施し渋滞問題を再確認

- ・現地診断により改めて江田駅東交差点の問題点が顕在化され、地域と一体となった対策が必要不可欠

○今後の取り組みとフォローアップ

【新石川交差点】右折渋滞への対応

- ・立体化後に発生した国道246号の右折渋滞に対応するため右折レーンの延伸に着手

【江田駅東交差点】右折渋滞ならびに交通事故軽減への対応

- ・右折渋滞が顕著である江田駅東交差点の右折レーン延伸対策に着手
- ・右折レーンの延伸により事故の軽減効果も期待が高まります。

○新石川立体化の整備内容や、その効果が小学校の教材に活用

- ・環境問題に対する総合学習として隣接する小学校では、新石川立体の整備効果が教材として活用されています。

平成19年3月27日
国土交通省 関東地方整備局 川崎国道事務所

発表記者クラブ
竹芝記者クラブ、神奈川県建設記者会、横浜海事記者クラブ、神奈川県政記者クラブ、横浜市政記者会

問い合わせ先
国土交通省 関東地方整備局 川崎国道事務所 tel. 044-888-6411
副所長 桑川 裕一 (内線205)
調査課長 山崎 隆 (内線451)